



収受年月日	議 長	事務局長	書 記
8.6.3			
第 2 / 号			

令和8年6月3日

埴町議会議長 鈴木 孝則 様

総務常任委員会委員長 鈴木 元久



所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第77条の規定により報告する。

記

1 調査事件

小学校の運営及び学童保育、はなまるはうすの現状について

2 調査の経緯

本委員会は、小学校の運営及び学童保育、はなまるはうすの現状について、担当課からの聞き取り調査を行った。

調 査 日：令和8年5月12日（火）

出席委員：鈴木元久、金澤太郎、藤田一男、吉田克則、吉田広明、七宮広樹、
下重義人

説明員：学校教育課長、課長補佐兼こども家庭支援室長、学校教育係長

職務出席者：議会事務局長、書記

場 所：委員会室

3 調査の結果

埴町は小学校2校体制でいくということになっているが、笹原小学校は昨年度より10名減で全児童数は22名で、すべて複式学級である。保護者は15戸で、令和7年度で教養委員会、環境委員会、厚生委員会がすべて廃止。新年度のPTA役員の中には3年生の保護者も入っている状態です。笹原学区から埴小学校への通学生は15名もいると聞いた。子供の絶対数が少ない中、保護者や地域住民、教育委員会と話し合い良い運営考えるべきだと思えた。

埴小では令和7年度より「教科担任制」を取り入れ、教科の特質に応じた指導を実施している。また教職員の定数配置が整い、以前より落ち着いて学校生活を送っていると伺った。

学童保育は令和7年度から対象を小学4年生までに限っている。以前は小学

6年生までが対象だった。現在の利用者は令和8年4月時点で埴小88名、笹原小3名の合計91名と聞くが必要とする保護者は不安な事も多くなると思う。縮小の理由としては施設の許容範囲を超えていると思われる。

はなまるはうすは令和7年度でB&G財団の補助金が終わり今後町の補助金を必要となるが利用者に喜ばれる施設となつてほしい。B&G財団から受けたワゴン車2台の活用については1台は、はなまるはうすの利用者の送迎として利用していると聞いた。年々利用者が増加していると言うが令和7年度から5・6年生が前年度と比較して増えた印象を受けた。これは学童保育の5・6年生の受け入れをやめたことに多少なりに影響があると思えた。

4 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	議員	事務局長	書記
8.5.26	議員派遣	調査研修等報告書	
第 号	委員派遣		

様式 1

令和 8 年 5 月 2 6 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 金澤 太郎

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 8 年 5 月 1 2 日 1 0 時 0 0 分より	派遣先 (場所)	委員会室
内容	小学校の運営及び学童保育、はなまるはうすの現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	調査内容についての現況説明を受けた。		
	笹原小学校の児童数が少ないことによる、多人数学習については、埴小		
	学校との交流授業を増やすことで、補うよう工夫しており、両校での学習		
	の良いところを相互に取り入れるべく、先生間での連携をとる等、工夫し		
	ている事が確認できた。		
	少人数・多人数ともにそれぞれの特徴がある。私自身は、小学校では学		
	年 13 人で育った経験から、人数の多い少ないにはあまり差は無いのでは		
	ないかと考えている。また、少子化が急激に進む中では、少人数学級の		
	良いところのノウハウ蓄積をしていくことにも意義があると思う。		
	少子化が良いということでは無く、そうならない対策を進めることは、		
埴町という地域にとっては、何よりも重要であることは当然である。			
育てる側の育てやすさが、将来埴町で暮らす選択をすることの一つに			

なることは間違いないが、報告を受けた学童保育は、令和7年度から対象を小学校
4年生までに限っている。以前は6年生まで対象だった。急に大人になるものでは
なく、学童保育を必要とする親御さんにとっては、不安な事も多くなるかと思う。
学童保育の対象の縮小は、受け入れ施設のキャパオーバーによるものと思われる。
高学年については、公民館施設を利用する等、何らかの工夫をすれば小学校卒業
までは、学童保育が可能になるのではないか。
はなまるはうすの利用対象には中学生までとあるが、創設以来中学生の利用が
申込を含め一人もない事を考えると、親御さんの子育て中、一人で子供を家におい
ておくことの不安の境目は小学校と中学校で線引きされるのではないか。このこと
を念頭に、施設要件が整わないことが理由で学童保育を4年生までに区切ることを
せず、6年生まで受け入れる体制づくりをすべきだろう。
はなまるはうすは、年々利用者数が増加している。令和7年度からは5・6年生
の利用が、前年度までと比較して増えた印象を受ける。これは学童保育の5・6年
生受け入れをやめたことによる影響が多少なりともあるのではないか。親御さんの
不安を少なくし、子育てしやすい環境づくりのためには、子供達の放課後の過ごし
方の選択肢を一つでも多くしておくことが必要ではないか。
施策一つ一つは、現代社会において必要とされる良いものがあるが、施設要件に
よって、利用を制限することが無いよう創意工夫が求められる。
以上

收受年月日	委員長	事務局長	書記
8.5.25			
第 号	議員派遣		

様式 1

議員派遣
委員派遣

調査研修等報告書

令和 8 年 5 月 2 5 日

議会議長
総務常任委員長
様



提出者 藤田 一男

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 8 年 5 月 1 2 日	派遣先 (場所)	委員会室
内容	1、小学校の運営及び学童保育、はなまるハウスの現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1、小学校の運営について。 埴町は、小学校 2 校体制でいくということになっているが現在の状況ではこの体制が揺らぐ事に成りそうである。 笹原小学校を残して行くためには、今の学区を維持するべきである。保護者から要望があれば変更を全て認めているとのことであるが、保護者と良く話し合い、なぜ埴小学校に入学させたいのか、なぜ笹原小学校では駄目なのか、場合によっては認めないという選択もあるのではないか。子供の絶対数が少ない中、教育委員会はより良い運営をするべきである。</p> <p>2、学童保育、はなまるハウスの現状ついて。 設置の規則にしたがって運営をしている。 現状では良くやっていると思われる、学童保育では施設の面積により、利用者の人数も限られている。 はなまるハウスは BG からの補助金が終わり町の持ち出しとなるが、始まったからには利用者に喜ばれる施設となってほしい。</p>		

收受年月日	委員長	事務局長	書記
8・5・26			
第 号			

調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則		提出年月日	令和8年5月26日												
調査等名称	総務常任委員会所管事務調査															
調査等の日時	令和8年5月12日 10:00～	場所	委員会室													
調査等の内容	小学校の運営及び学童保育、はなまるはうすの現況について															
意見感想	<p>学校教育課から、埴・笹原小学校の現状と学童保育・はなまるはうすの現状について説明を受けた。</p> <p>小学校の現状 児童生徒数及び学級数 (令和8年5月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 校</th> <th>児童生徒数</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埴 小学校</td> <td>281 人</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>笹原小学校</td> <td>22 人</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>303 人</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>小学校の児童生徒数は少子化が進みますます減少すると推測する。笹原地区から学区を越えて埴小学校へ通学者いると言う。</p> <p>笹原小学校はあまりにも少人数で小学校として成り立たない現状と思われた。</p> <p>いち早く保護者や地域住民、教育委員会と話し合い、埴小学校との統合を考える時期と思う。</p> <p>子ども達の健全な教育と成長を最優先に考えての判断を申し上げたい。</p>				学 校	児童生徒数	学級数	埴 小学校	281 人	12	笹原小学校	22 人	4	合 計	303 人	16
	学 校	児童生徒数	学級数													
	埴 小学校	281 人	12													
	笹原小学校	22 人	4													
	合 計	303 人	16													

收受年月日	委員長	事務局長	書記
8・5・20			
第 号	議員派遣		

様式 1

調査研修等報告書
委員派遣

令和 8 年 5 月 2 0 日

鈴木孝則 議会議長 様
鈴木元久 総務常任委員長

提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 8 年 5 月 1 2 日	派遣先 (場所)	委員会室
内容	1、小学校の運営及び学童保育、はなまるはうすの現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1、小学校の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埴小学校は教職員の配置で「教科担任制」が盛り込まれた。特質に応じた学力向上や教職員の授業力研修を実施しているので期待したい。学級崩壊の話では、現在、医療処置で対処しているとのことである。先生方は使命感・仕事への熱意も高く、まだまだ働き方改革も進んでいないのを議会は理解すべきだ。また、必要なのは保護者や地域の協力でもある。 ・笹原小学校は全校児童が昨年度より 10 名減。埴小学校との交流事業を実施しているが、可能な限り交流を増やせば減少に歯止めが掛かる可能性もある。小規模校を維持するために、地域住民の参加による地域学習・地域交流の推進には特色がある。学区や統合の話も出たが、最大通学路片道 30 km を視野に入れた議論がなされていない。埴小学校まで通学するには大変で、父母や家族の時間的な理解や地区の存続も考慮しなければならない。 <p>2、学童保育、はなまるはうすの現状について</p> <p>少子化の中で、父母の仕事と子育て環境の低減のためにも待機児童がないように対策を継続しながら、利用料金の見直しや、はなまるはうすの受け入れも柔軟に対応をしてほしい。</p> <p>福島県の学力が都道府県福島県の直近の全国学力テスト（2025 年度）の順位は、小 6 算数が全国 37 位、中 3 数学が 35 位で長年低迷を続けている。また、こども家庭センターを今年度から運営するにあたり、適切な運営を期待したい。学びを論じる前に子供は敏感である。大人達が振り返るのも必要である。</p>		

收受年月日	委員長	事務局長	書記
8.5.29			議員派遣・委員派遣
第 号			



所管事務調査報告書

令和8年5月29日

総務常任委員会
鈴木元久 委員長 様

提出者 七宮広樹 ㊟

派遣目的 (調査等名称)	総務常任委員会		
派遣の日時	令和8年5月12日(火)	派遣先 (場所)	委員会室
内容	小学校の運営及び学童保育、はなまるうすの状況について		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>この度の所管事務調査では、笹原小学校の授業等の様子など状況把握ができ、有意義な所管事務調査であった。</p> <p>学校教育課より、小学校の概要・各小学校の現状・児童生徒数及び学級数、学童保育・はなまるはうすの現状について、丁寧でわかりやすい説明を受けた。</p> <p>●塙小学校では、以前より落ち着いて学校生活を送ることができるようになった事や、令和7年度より「教科担任制」を取り入れ、教科の特質に応じた指導が行われていることを知る。また、その他さまざまな取り組みが行われ評価する。</p> <p>●笹原小学校については、令和6年度より完全複式学級となり、昨年度より10名減で、全校児童22名が通っている状況を知る。</p> <p>また、塙小学校との交流授業を年間を通して10回程実施し、学力の向上や意見交換なども行われていることをも知る。</p> <p>完全複式学級の授業の様子や、運動会・学習発表会の対応、また遠足時の実施について説明を受けた。</p> <p>●学童保育・はなまるはうすについては、利用者数や待機児童、利用者の安全確保に対する対応についても把握することができた。</p> <p>また、B&G財団から受けたワゴン車2台の活用についても1台は、はなまるはうす利用者の送迎車として活用されている事を聞く。</p> <p>この度の所管事務調査で感じた事として、教育は極めて重要であり、同町の小学校児童には同等の教育環境の下で、様々な体験を通じて人間形成と、切磋琢磨を通して、極めて貴重な6年間を過ごしていただきたいと切に願う。同等の教育を受ける環境づくりは町の責任出会って、極めて責任は重い、また関わる議員にも導く事が出来ていない状況には責任があり痛感している。塙町の児童を「井の中の蛙大」にはしてはいけない。</p>		

収受年月日	委員長	事務局長	書記
8.5.26			
第 号			

様式 1

総務常任委員会所管事務調査報告書

議会議長
委員長 様

令和 8 年 5 月 26 日

提出者 下 重 義 人

派遣目的 (調査等名称)	総務常任委員会		
派遣の日時	令和 8 年 5 月 12 日 (火) 午前 10 時～	派遣先 (場所)	役場委員会室
内 容	小学校の運営及び学童保育、 はなまるはうすの現状について		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>各小学校の現状 (埴小学校)</p> <p>令和 7 年度より「教科担任制」を取り入れ教科の特質に応じた指導のためか以前より落ち着いた学校生活を送られているように見受けられているとの説明である。児童の実態に応じた指導の工夫・改善を行い教職員の授業力向上に繋がる研修などを実施したとのことである。</p> <p>(笹原小学校)</p> <p>全校児童が昨年度より 10 名減の 22 名となり埴小学校との交流授業を年間通して実施し学力向上に努めているとの説明である。今後は小規模校の良さを活かした教育活動の展開、地域資源の活用や地域参画を推進しているとのことである。</p> <p>今後、両小学校の授業努力に期待したいと思います。</p> <p>(学童保育・はなまるはうすの現状)</p> <p>各施設の目的は児童の居場所確保と健全な育成そして安心安全な居場所とあるが、保護者の方々には最も重要視するところではと思います。今後に期待します。</p>		